

に平戸の假寓に歿したることを等述へ、第九章には相州逸見の安針塚及び平戸に於ける安針の埋骨地に就きて考證を試み、第十章餘論として安政の開國並に日英の同盟に論及せり。(東京明誠館書店發行、價一、三〇)

●貿易史上の平戸

文學士 村上直次郎著

本書は寛永鎖國以前平戸が外國貿易市場として隆盛を極めたる時代の史實を平易簡明に叙述したるものなり。先づ平戸が古來朝鮮支那との交通の要路に當りしことより説き起し、天文年間葡商牙商船初めて此港に來りし事情、當時耶穌布教の狀況等をも述べ、次で葡商牙人は横瀬福田を経て長崎に移り、平戸港は一時沈靜に歸したりしが、慶長年間蘭英人來りて此地に商館を設くるに及び再び繁華に赴き、更に蘭英人は西班牙葡商牙人に對抗せんが爲め防禦同盟を結び、平戸を兩國聯合艦隊の根據地となし、平戸港、外國貿易の全盛期を現出せしことより英人が蘭人との競争に敗れて間も無く日本を去り、次で西班牙葡商牙の通商禁止となり、蘭人は日本貿易を獨占せしが、島原亂後長崎へ移さるゝに及びて、平戸の海外貿易全く斷絶するに至りしことを説けり。本書は概く内外の史料に據り、此間の史實を明かにし、殊に英四兩商館貿易の實況、當時の輸入品及び其價格、又當時履行はれたる兩商館員參府の經費等に就きては、根本史料に基きて精密なる調査を試みた

る所、著者蘊蓄の一端を窺ふべし。附録として重要な史料二十八種を掲げ、且つ多數の寫眞を挿入し、讀者の興味を深からしめたり。(日本學術普及會發行、價一、五〇)(以上山鹿誠之助)

●聖德太子傳

増野黃洋著

本書は著者が本邦の歷史上に現はれたる數多の偉人中最も偉大を信じ且つ最も誤解されたりと信ずる聖德太子の眞面目を發揮せんとして著はしたるものなり。是より先、著者は明治卅七年「聖德太子傳」を公にし、次で四十一年其再版として「増訂聖德太子傳」を出せり。本書は更に補訂を加へたるのにして、先きの増訂版と比較するに、其の多くの部分に於ては同然なるも、亦所々主要なる點に改竄を施したるものあり、即ち第一章の緒論は此れを彼れの第一章太子傳を研究する必要と類似の思想より書かれたるものなれども、さきには國史の大勢を大化改新、鎌倉幕府創立、明治維新の三區劃となしたるに、此には大化改新と明治の維新とを以て國史の二大更新なりと斷じて、聖德太子の地位を以て明治天皇と比較したる如きは、其の一例にして、該論は遙かに前者の夫れよりも穩健周匝なるを覺はしむ。第八章太子前後の佛教は彼の太子以前の佛教より出でたるものならんも、殆んど前者と相同じからず。又増訂版の第二章奈良の佛教的、文化は削除せられて、本書に於ては第十一章太子の事業の一章を立て、太子が當代狩獵の弊

害を矯正せんために試みたる禁獄、國史の纂修、池溝開墾、工藝繪畫の奨励、音樂の學習等に就て述ぶるところなり、尙附録として聖徳太子憲法略解一篇を新たに加へたり。太子の十七條憲法に關しては昨年岡田正之氏、黑板博士相踵いで其研究を發表せられしが、本書十七條憲法の章には此等の新研究に就いては言及するところなしと雖も、附録に於ては岡田氏の所説をも參酌考慮して筆を行れり。尙ほ其他の章節中にも小補正をなしたる所あり、引用の漢文の字句に讀み易き様送り假名を施せる等と改正せられたるところにして、要するに本書は因より全く前版の面目を更めたるものにはあらざれども著者が多年其の崇拜する聖徳太子を傳するために常に工夫を怠らざるを見るべし(丙午出版社、價一〇〇)〔西田〕

◎賀茂眞淵と本居宣長 文學博士 佐々木信綱著

本書は著者が最近二三年間に濱松、名古屋、松坂等の各地に資料を探りし結果として成れる眞淵、宣長兩翁の傳記學問に關する論文小品二十篇を集めたるものなり。前者に關しては縣居の九月十三夜、眞淵の遷都論、眞淵の土藩に贈りし書牘、豊凡と眞淵、眞淵と景樹、縣居集音錄の一節、眞淵と元厩校本萬葉、眞淵と三十一言の歌、ふくろの抄及び眞淵の遺墨の十篇あり、後者に關しては松坂の一夜、宣長傳補遺、宣長の母勝子、松坂雜記、古事記

傳の版木、宣長と萬葉研究、宣長の五言七言論、排蘆小船、宣長の歌論、磯弁問答解説及び和泉和麿の宣長評の十篇あり。これら諸篇の中縣居の九月十三夜及び松坂の一夜の二篇は他の諸論文と稍々其趣を異にし、多く想像を交へて歴史小説の體となし、吾人をして寧ろ無くもがな之感を起さしむ。その他諸篇は長短一ならずれども、何れも趣味と價值とに富める文字なり。殊に蒙庵と眞淵及び宣長傳補遺中の宣長の神道歌論に關する思想の淵源の如きは學問の傳統を考ふる上に參考となるものなるべし。ふくろの抄は眞淵が四人の女弟子に宛てたる書翰集「ふくろ」の抄録にして、眞淵の人物を窺ふべき好資料たり。又排蘆小船は宣長の著にして學界未知のもの、石上私淑言の初稿本なりと著者は断定せられたり。要するに本書は文章平明振假名附にして通俗を旨としたれども、その記事斯道の研究者を裨益すること多大なるべし。卷頭には關係の寫眞版八葉を挿入せり。(東京市京橋區南橫町十八番地廣文堂發行價〇、九〇)〔古田〕

◎松平不昧傳

三冊

松平家編輯部編纂

出雲松江藩に於ける近世の名主として、又茶道不昧流の開祖として名高き松平泮郷公の傳記にして舊藩主松平直亮伯の意を承け高橋龍雄氏主としてこれを編纂し文學博士三浦周行氏の校閲を経たるものなり。本書上卷は卷頭雲州松平家國主略表、松平不昧略